さとうじゅん子さん

Instagram @daijoubudavillage

会社員として働きながら4人のお子さんを育てるなかで孤 独な子育てを経験。「ママの休日コミュニティ」や雑木林 で子どもたちが遊び育つ「モリトコ」を立ち上げるなど、 子どもやお母さんたちの居場所づくりに尽力する。農林

> 地域の人に相談。紹介された 地主さ て麦に興味を持ち、麦畑をやりたいと

> ぶなんだ』って来た人が思える場にし 前だけど、それは本当に〝だいじょう

「゙だいじょうぶだ村゛ってふざけた名

親子連れなどが訪れる。

きっかけは10年前。パン好きが高じ

61号との出会いをきっかけに、麦栽培を中心とした農あ る暮らしを分かち合う「だいじょうぶだ村」をオープン。 子どもから大人まで幅広い村人を受け入れる。

圖だいじょうぶだ村の場所等は Instagram へ DM で問合せ

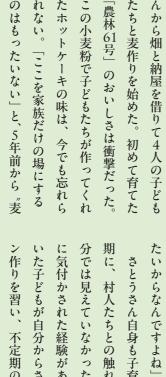


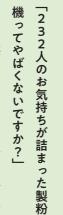












土曜日をオープンデー じょうぶだ村」として

物語が続

てい

くような。

「村人」たちと畑作業をし、採れ

ティ「だいじょうぶだ村」の麦を、 で購入した石臼製粉機だ。 れで粉にするという。 そう笑うさとうじゅん子さんが見せ れたのは、クラウドファンディン 畑コミュ

期に、村人たちとの触れ合いの中で自 分では見えていなかったわが子の良さ 作りを習い、不定期のパン屋さんを た子どもが自分からさとうさんに 気付かされた経験がある。 さとうさん自身も子育てに悩んだ時 村に来て

麦の栽培を始めてから10年。 優しさに触れて、人の温かさを感じた。 小学生からも支援が寄せられ、 は、村に来たこともない人や遠方の人、 大きく変わったと実感する 自分自身 無償の

手を差し伸 お金を か見た を介さ べ合っ てその後も

所になっていった。

2年前からは「だい

人も子どもも集う居場

次第に大

のが「だいじょうぶだ村」が目指す姿 のやりたいことや好きを見つけられる 「だいじょうぶだ」と安心でき、 ということもあった。 誰もが 自分

の差し入れや持ち寄った食材等をふる たものでごはんを作ったり、地主さん

まったりして豊かさを分かち合う。

外・県外から、農や麦に関心のある

と立ち寄る人もいる。 人や得意なDIYで関わる人、 業等で関わる。納屋の片づけを手伝う 参加費はなく、 お気持ちの金銭や作 ふらっ

よね。子育てが大変な時期の人がい お金を介さない世界を見たいんです

できたらいいなあと思うんです」 伸べる。コミュニティ全体で子育てが ばここで子どもを見てあげたい。でき る人たちで手を差し伸べて、それが難 製粉機のクラウドファンディングで い人は余裕ができたときに手を差し

> たされ、 るんですり 耕し、汗を流すたびに、なぜか心が満 生きる力がどんどん湧いてく

とが待っている。 「敷地内の元剣道場の使用許可がもら これからの10年も、 きっと面白いこ

えたんです。昔は剣道を習いに来る子

どもで庭が溢れていたそうですよ。そ んな賑わいをまた作りたいですね」 元剣道場を片づけている時に古いア

んでいく。 らったりした。つながりがどんどん広 アコンや冷蔵庫の提供の申し出をも 道達人の農家さんとつながったり、エ大切にする場を作ろうと呼びかけ、柔 地域には麦畑が広がっていたことを知 いを馳せるように。日本の文化や心も 地主さんが庭の梅でジャムを作って バムや資料を発見した。昔からこの かつての里山の暮らしに、より想 場所の使い方のアイデアも膨ら

シェアしていくのが、 事にしながら生活に落とし込んでい のを使ったり、 の暮らしなんじゃないかなって思いま く』ってこと。それを地域の人たちと 当たり前のようにやっていた゛あるも て、それで箸を作ったりしてて。昔は くれたり、私たちも竹をみんなで切っ 土地の地質や風土を大 北本ら しい里山

